

2

六年一組の高野さんの学級では、健康な生活のために「早ね早起き朝ごはん」運動に取り組んでいます。高野さんは、これまでの活動の結果を報告文にまとめ、学級みんなに伝えることにしました。次は、高野さんが書いている【報告文の一部】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【報告文の一部】

○「早ね早起き」活動のまとめ

1 成果

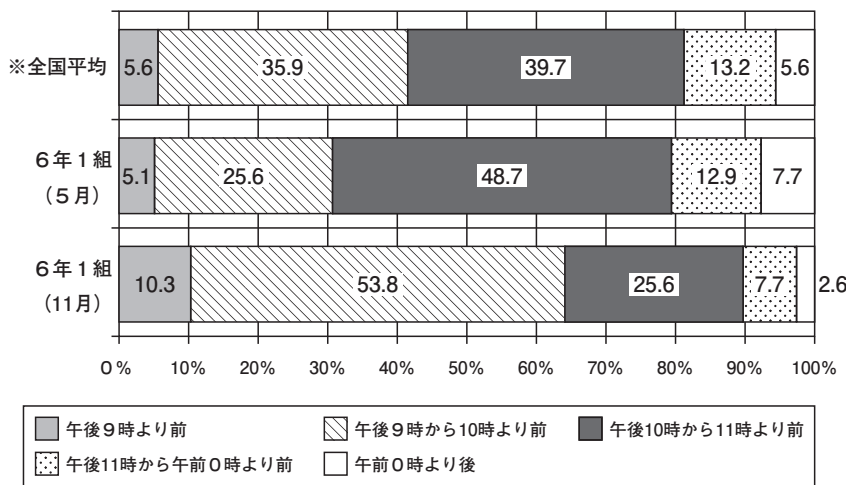
アンケート調査の結果、これまでの半年間の活動が成果を上げていることが分かりました。

〈図1〉のように、活動を始める前の五月の時点では、「次の日に学校がある日」に夜十時を過ぎても起きている人の割合が全国平均を上回り、早ねができていないといえませんでした。それが半年間の活動後には、夜十時までにねる人の割合が **A** 。

その理由として、〈表1〉から、「成長に大事なすいみを十分にとるために、夜十時までにはねましよう。」という保健室の先生のお話がみんなの心に残ったのだと考えます。他にも、毎日を動かすように、体育がない日にクラスで外遊びを行う活動や、「健康せんげんカード」に早ね早起きができたらを記録する活動を行ったこともあげられます。

〈図1〉

次の日に学校がある日は、ふだん何時ごろにねますか。



(※全国平均は、文部科学省「平成26年度家庭教育の総合的推進に関する調査研究—睡眠を中心とした生活習慣と子供の自立等との関係性に関する調査—」に基づく。)

2 課題

成果があった一方、生活のリズムを保つという点で、今回の活動では改善できず、これから解決していきたい課題がありました。

課題は〈図2〉から分かるように、

B

この課題を解決するためには、テレビやゲームの時間、メールなどをする時間、そして「健康せんげんカード」の記録方法について考える必要があることが〈表2〉から分かります。

3 解決方法

そこで、わたしたちは多くの人を取り組める次のような解決方法を考えました。

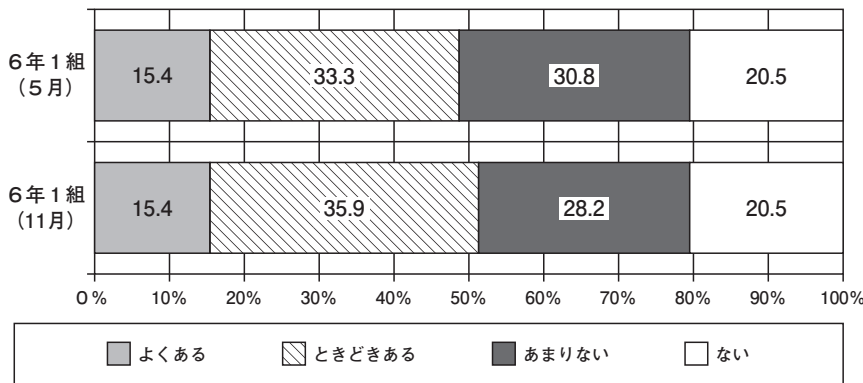
C

・休みの日にも「健康せんげんカード」に記録をつけるようにする。  
 今後は、これらの解決方法に取り組んでいきたいと思えます。

○「朝ごはん」活動について  
 (報告文が続く)

〈図2〉

次の日に学校がない日は、学校がある日に比べて、ねる時刻が2時間以上おそくなることはありますか。



〈表2〉

ねる時刻が2時間以上おそくなる理由は何ですか。  
 (いくつ答えてもかまいません。)(6年1組 11月)

夜おそくまでテレビを見たり、ゲームをしたりしているから。	20人
夜おそくまで友達とメールなどをして いるから。	14人
休みの日は「健康せんげんカード」に 記録しなくてもいいから。	10人
家族のみんなも起きているから。	4人
その他	7人

〈表1〉

早ねをするようになった理由は何ですか。  
 (いくつ答えてもかまいません。)(6年1組 11月)

保健室の先生のお話から、すいみんが 成長に大事だと分かったから。	23人
毎日体を動かしたら、早くねられるよう になったから。	14人
「健康せんげんカード」に記録するから。	9人
早ねを毎日続けるようにしたら習慣に なったから。	8人
早ねをしたら授業に集中できるよう になったから。	5人
その他	11人

一 高野さんは、「1 成果」について〈図1〉を用いて書くようとしています。Aの中に入る内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 五月の結果を下回り、三十パーセント程度になりました
- 2 五月の結果より減り、四十パーセント以下になりました
- 3 五月の結果より増え、六十パーセントをこえました
- 4 五月の結果を上回り、十パーセント程度になりました

二 高野さんは、「2 課題」と「3 解決方法」について書くようとしています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

- (1) 高野さんは、「2 課題」について〈図2〉を用いて書くようとしています。Bの中に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 〈図2〉の結果から考えて書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、四十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。



三 高野さんは、「早ね早起き」活動のまとめの中で、「1 成果」だけではなく、「2 課題」も取り上げて書きました。課題を取り上げた効果の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 問題点を解決しながら、さらに成果が上がる活動につなげることができる。
- 2 活動に取り組むよさが明らかになり、それを多くの人に広めることができる。
- 3 この活動に取り組み始めるようになった、最初のきっかけに気づくことができる。
- 4 成果が強調されて、この活動の必要性をより強く感じることができる。